

大切なお子さんを交通事故から守るために

保護者の方へ…

子どもの特性を踏まえた指導をお願いします



特性① ひとつの事に 夢中になる

「飛び出し」がいけないことは理解していても、道路の向こうに友達や家族がいて、周りの状況には目もくれず、つい飛び出してしまいます。

道路を渡る時は、

横断歩道を渡る

信号を守る

手をあげて安全確認をする等、安全な行動が身につくように、繰り返し教えましょう。



特性② 単純思考 抽象的な言葉では伝わらない

「手をあげる」「左右をみる」だけでは、子どもは理由まで理解できず、手の位置が低かったり、ただ漫然と首を振るだけになってしまいます。

「車の運転者に見えるように手をあげる」

「右や左から車が来ないか見る」などと具体的に教えましょう。

「いつもの道路」もチェックをしてみましょう！

- 子どもの目線で危険をチェック！
- 危険回避方法を具体的に指導
- 覚えるまで、何度も繰り返す



大人には見通しの良い腰高の植え込みやガードレールも、子どもの身長では死角になります。見通しのよい場所で、顔をしっかり左右に振って安全確認をさせましょう。

特性③ 大人に依存

子どもは、良いことも悪いことも大人のマネをします。

また、「大人がいれば安心」と判断し、安全確認などを大人任せにしてしまいがちです。

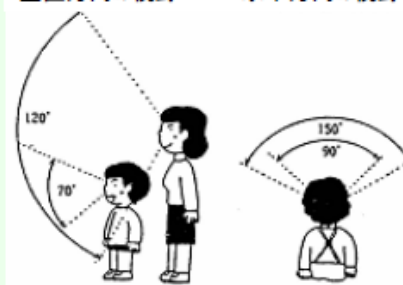


子どもと一緒に安全確認を行うことはもちろんですが、周囲の大人が、日ごろから交通ルールをしっかりと守り、子どもの手本になりましょう。

特性④ 視界が狭い

垂直方向の視野

水平方向の視野



子どもの視界は、大人の3分2程度といわれています。

安全確認をさせるときは、顔をしっかりと振らせましょう。